

令和3年10月 教育委員会定例会会議録

1 開会の日時

令和3年10月7日(木) 午後4時00分

2 出席委員

新 倉	聡	教育長
荒 川	由美子	委員(教育長職務代理者)
澤 田	真 弓	委員
川 邊	幹 男	委員
元 木	誠	委員

3 出席説明員

教育総務部長	佐々木 暢 行
教育総務部総務課長	杉 本 道 也
教育総務部教育政策課長	古 谷 久 乃
教育総務部生涯学習課長	高 橋 直 人
教育総務部教職員課長	平 石 拓
教育総務部学校管理課長	二 見 裕
学校教育部長	米 持 正 伸
学校教育部教育指導課長	川 上 誠
学校教育部支援教育課長	富 澤 真由美
学校教育部保健体育課長	鈴 木 史 洋
学校教育部学校食育課長	山 田 智 子
学校教育部教育情報担当課長	飯 田 達 也
中央図書館長	山 口 正 樹
博物館運営課長	柳 井 栄 美
美術館運営課長	岡 本 剛 彦
教育研究所長	阿 部 優 子

4 傍聴人 5名

5 議題及び議事の概要

- 教育長 開会を宣言
- 教育長 本日の会議録署名人に荒川委員を指名した。
- 日程第1 議案第43号については、神奈川県教育委員会が今後発表する案件であるため、秘密会とすることを提案、「総員挙手」をもって秘密会とすることを決定。

○ 教育長報告

(新倉教育長)

それでは、9月定例会から本日までの間の所管事項について、報告をさせていただきます。

お手元の教育長報告資料をご参照いただければと思います。

9月定例議会が8月30日から行われておりまして、10月5日をもって決算関係につきましてのご承認をいただいたところです。

なお、10月5日に荒川委員の委員再任のご議決をいただいております。

学校関係ですが、9月29日から中学校完全給食が開始いたしました。当日につきましては、市長、両副市長が現地の状況を確認するために、常葉中学校にて給食の状況について確認をしていただくことともに、試食をしていただいたところであります。

図書館、博物館、美術館等につきましては、8月2日からの緊急事態宣言に伴いましてずっと閉館をしておりましたが、9月22日、指定方針を出させていただいて、自然・人文博物館、馬堀自然教育園については9月24日から、図書館については9月25日から、生涯学習センター並びに学校開放施設については9月27日から、それぞれ再開をいたしました。横須賀美術館につきましては、市外からの来訪者が多いということから、10月1日からの再開となっております。

したがって、今、展示の部分では、その前からの日程が入っていますけれども、現在は全て開館ができているところになっております。

(質問なし)

教育長 報告事項を聴取することを宣言

報告事項（１）『令和３年度学力・学習状況調査の結果について』

（教育指導課長）

今年度実施いたしました『横須賀市立小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果について』、ご報告いたします。

資料「令和３年度学力・学習状況調査実施の結果について」、ご覧ください。

まず、横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果についてご説明いたします。

資料の２ページから５ページ、教科別調査における本市全体の結果をまとめております。

各学年、教科ごとに示しております数値は、基礎、活用及び教科全体の同じ問題を受験した全国の児童・生徒全体の平均正答率を100としたときの横須賀市の平均正答率を示しています。同じ問題を受験した全国の児童・生徒数は、おおむね13万人から20万人となっています。

学年、教科によって傾向は異なりますが、全ての学年、教科において、本市の児童・生徒の平均正答率は、全国の児童・生徒全体の平均正答率を下回っております。しかしながら、学年が上がるにつれて、全国の児童・生徒全体の平均正答率に近づく傾向があります。過去の本調査や全国学力・学習状況調査の結果からも同様の傾向を見取ることができます。

また、今年度より調査対象に加えた小学校２年生については、小学校３年生や小学校４年生よりも良好な値が得られました。集団が異なるため、今年度の結果だけを見て判断することはできませんが、この結果からは、小学校１年生よりも小学校２年次や３年次の学習内容の習得に課題があることが見取れます。

各学年、教科の課題については、結果とともにお示ししています。

全体的な傾向としては、理由を説明したり、条件に合った作文をしたりするなどの記述することに課題が見られる傾向があります。教科を問わず、日々の授業において、自ら考える力、考えを整理する力、考えを表現し記述する力を伸ばすことができるような指導改善を図ることが必要となります。

次に、質問紙調査結果についてご説明いたします。

資料の５ページ、６ページに市全体の結果をまとめております。

６ページの表については、質問紙調査結果における個々の質問をカテゴリーごとに分類しています。

それぞれのカテゴリーに分類される一つ一つの質問について、望ましい選択肢、改善・配慮を要する選択肢を点数化し、どの程度の児童・生徒が肯定的な選択肢を選んだかを数値化しています。その数値をさらに全国平均を50として算出した値を示しております。

したがって、値が大きいほど肯定的な回答をした児童・生徒の割合が多く、また、値が50に近いほど、全国平均に近いことが分かります。

家族や友達、先生との関係については、全国と比較して良好であることを認める一方で、今現在の充実感を実感し、未来の自分を信じて頑張る力にやや弱い側面があることが分かります。また、学習習慣、学習意欲については、全ての学年において全国平均値を下回っております。

続いて、全国学力・学習状況調査の結果についてご説明いたします。

教科調査については、8ページに本市全体の結果をまとめております。

小学校6年生においては、国語、算数ともに例年と大きな変化はありませんでした。

中学校3年生においては、国語、数学ともに全国平均とほぼ同値であり、特に数学については全国平均を上回る結果となりました。9年間を通した取組の成果と捉えることができます。ただし、集団による違いも大きいため、今後の推移についても確認し、引き続き指導の充実を図る必要があります。

さきにお示ししております本市調査と同様、2教科に共通して、記述することに課題が見られる傾向があります。

質問紙調査結果については、本市全体の結果と全国の結果との差が5ポイント以上ある質問事項について、9ページから12ページまでにまとめております。その中でも、全国との差が8ポイント以上ある質問項目から見取れる傾向を13ページに示しております。

本市調査と同様、学習習慣について課題が見られますが、中学校3年生については、平日の学習時間が全国に比して長い傾向があります。また、小学校6年生、中学校3年生ともに新聞を読まない児童・生徒の割合が高く、中学校3年生については読書をしない生徒の割合も高い傾向にあります。

授業におけるICT機器の活用の頻度については、昨年度までの授業及び今年度の小学校6年生の授業においては全国平均値を下回っています。1人1台端末の利活用が始まっている中学校3年生の今年度の授業においては、全国の平均値を大きく上回っています。

これらの結果を踏まえ、14ページにお示ししておりますような取組を実施し、学力向上に努めてまいります。

本日ご説明した令和3年度の横須賀市立小・中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果については、お手元の資料と同様のものを市教育委員会のホームページにて掲載し、市民へも周知してまいります。

また、今後、各学校の実態に応じた指導、助言、支援にもつなげていきたいと考えております。

以上、ご報告いたします。

(荒川委員)

市のほうの小学校・中学校学力状況調査でも、全国のほうでも同じように、どの学年でも記述式の問題に対して未回答率が高いのですが、これは本市だけでなく、全国的に見てもそのような傾向にあるのか、あるいは本市だけの傾向なのか、分かる範囲で結構ですので、教えていただければと思います。

(教育指導課長)

全国的にも未回答率は比較的高いですが、その中でも、本市についてはかなり高い傾向があります。

(澤田委員)

これらの調査については、前の学年までの履修内容の理解や状況を把握することになります。前年度は、コロナウイルス感染症拡大防止の対応で長期間臨時休校になったり、時間割の変更や夏休みの短縮等があったりと、授業をはじめ、学校生活全体がこれまでと異なったものとなりました。コロナ以前の学習状況調査や質問紙調査結果と比べて、いかがだったでしょうか、コロナの影響はあったのでしょうか。

(教育指導課長)

今年度の質問紙調査結果の中では、大きく、一昨年度もしくは昨年度も含めたところでの顕著な傾向というか、そういった違いはございませんでした。

教科につきましても、昨年度は実施時期がずれたということで、令和元年度に比べて比較的全国平均に近い状況にありましたが、今年度は、特に2年生から5年生までの市の学習状況調査、それから中学校1年生と2年生の市の学習状況調査については、令和元年度までの傾向とは大きく変わりませんでした。

(元木委員)

今回の結果が、児童・生徒の学力全てを表すものではないとは思いますが、ただ、この結果を見ると、ほとんどの項目で全国平均より低いと。この結果を見たとき、保護者の立場としては、少し心配になります。

実際、教育の現場として、横須賀の子どもに対して教育がうまくできているかどうかという評価をどのようにしているのか教えていただきたいのですが、ただ、この結果というのが毎年低い傾向にあると思います。それが改善できていないというのは、何か問題があるのではないかと思います。問題点があるのであれば教えていただきたいと思います。

(教育指導課長)

複合的な要因というか、分析の指針がありますが、今回、小学校2年生の学習状況を遡ってみました。1つ前の学年ですから小学校1年生の学習内容ですが、やはり他学年と同じように、全国平均と比べるとやや低い傾向があります。

それ以上に、小学校3年生、4年生でのやはり開きが大きいということも明確になった中では、やはりこれまで、私たちのほうでの施策のほうで打ち出してきた小学校1年生、2年生での学習、学校での授業を中心とした学習について、何か課題があるのではないかというところは、今、分析しているところがあります。

また一方で、特に、小学校4年生と中学校1年生を中心とした学習支援員等の活用によって、義務教育の最終的な段階では、ほぼ全国に追いつくというか、到達していくというところも出てきたので、できるだけ、小学校の低学年の段階での学習のつまずきをより改善できるような取組につなげていくように学校と連携していくように考えております。

(川邊委員)

教科別で見ますと、これはやはり教育の結果だと思えます。逆に言うと、低学年のほうで、就学時からの問題もあるのかなと思うので、その辺のことに何か少し教えていただけますか。

(教育指導課長)

そのあたりの時期の、私たちができる範囲のところとできないところがあるのですが、現在、就学前の入学説明会等で、保護者の方には生活習慣についての啓発ですとか、それから家庭学習の必要性や、義務教育の中では勉強というものが始まるということ、各学校を通じて、啓発というか、保護者のほうにも協力を依頼しているところです。

(澤田委員)

全国学調の教科の問題について、振り返りというのは児童・生徒に行っているのでしょうか。

また、実施しているのだとは思いますが、各教科の研究会等で、具体的問題を上げて検討していただきたい、先生方に理解していただきたいと思っています。

設問ごとに、出題の趣旨や学習指導に当たって等の解説も国研から「報告書」として出されています。ぜひこれらを参考としながら、今後の授業改善に生か

していただきたいと思います。

(教育指導課長)

後半部分につきましてはありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。

前半のご質問につきましては、全国・学力学習状況調査が返却されるのが夏休みの終わりから9月にかけてですので、前期末の面談の中で、まず、保護者に子どもの前で結果を通知して、課題等についてはここで理解をします。

もう一つは、やはり市全体、国全体、それから学校全体の中で、明らかな国語や数学、算数の中での学習課題があれば、やはり全学年の部分であれ、10月以降の授業の中で、もう一度その部分を復習したりとか、それから次の学年、5年生ですとか4年生、それから中学校であれば、2年生、1年生で関連する学習内容の部分で、その啓発というか、子どもたちがつまづかないような指導方法を工夫しながら進めております。

研究会等につきましては、学力向上担当者会というのを私たちのほうで設定しておりまして、澤田委員からお話いただいたように、やはり今回こういう問題が非常に小学校でも中学校でも課題だったということで、学校の中で研修会の機会等で、教職員全体で振り返りをさせていただきたいというようなお願いをしております。

(荒川委員)

すみません、私から、質問ではないのですが、14ページの5行目に、9年間の学びを通して、本市の児童・生徒の学力が向上していることが見てとれていると書かれています。

このように、9年間を通して学力が向上しているという点はよかったとは思いますが、それぞれの学年の中で、多くの子どもたちが自身の学びについて、やったとか、できたとかという体験を通して、自己肯定感が持てるようになってほしいなと思います。

ですから、特にどの学年においても未回答率が高い記述式の問題に対して、今後も、教育委員会として、各学校の指導力向上に向けて力を注いでいただけたらいいのかなというふうに思います。よろしく願いいたします。

(学校教育部長)

ありがとうございます。

やはり教育指導課長が申し上げているとおり、課題が、長年やはりずっと課題のままで、なかなか解決できないところがあると思います。特に、子どもた

ちの書く力、それから記述問題に対するというところ、そのところをはっきり、これからも引き続き、重点的に考えていかなければならないなというふうに思っています。

横須賀の子どもたちは、だんだんと年齢が上がるにつれて、学習に向かう意欲というのは高まっているというところは見えてとれるのですが、それは、1つにはやはり中学生は高校入試もありますので、それに向かっていっているといったところも見取れるかもしれません。

小学校のほうは、なかなかスタートのところでもそこが高まっていないので、その点については、これまでも学習支援員や、それから低学年の指導のアドバイザー、そして小学校の少人数学級等、施策を打ってきているわけですが、そういったものがどんな効果を発揮したのかということをもう一回見直しながら、引き続き、効果的な施策について十分考えながらやっていきたいというふうに思っています。

なかなか成果が出なくて、皆さんにご心配かけているのは本当に重々承知しているので、これからも努力していきたいと考えています。

(澤田委員)

I C T機器の活用について、13ページの最後の段落で言及されているとおり、ぜひI C T機器を活用できる環境の整備と効果的に活用できるよう進めていただきたいと思っています。

今後、全国学力・学習状況調査もC B T化、コンピューター、オンラインによって実施するということが段階的に進められます。既に一部、質問紙調査については試行・検証に入っています。児童・生徒の質問紙調査は、令和6年を目途にオンラインによる回答方式を全面導入、教科調査については、端末操作の熟達の程度や実施体制の準備の観点を踏まえて、中学校から先行し、令和7年度以降できるだけ速やかに、導入していくという計画があります。これらにも対応できるよう、I C T活用を計画的に進めていけるように取り組んでいく必要があると思います。

(学校教育部長)

澤田委員からのご助言も大変ありがとうございます。

コンピューターの活用、I C T機器の活用については、今回のG I G Aスクール構想により、1人1台端末が横須賀でも、小学校は11月をもって完了するというので、それに向けて各学校での研修も進めながら、日々、活用につめられるような体制を取っているところです。

教員の習熟とともに、子どもたちにもしっかり使ってもらえるように、子どものスキルアップというところも併せて進めていき、どうしたら授業に有効に使えるかというところを先生方と共に教育委員会で研究をしながら進めていく、そういう計画で進んでおります。

それから、全国学力・学習状況調査のC B T化については、ずっと前から報道等でも言われていて、我々もキャッチしてきているところです。

これも当然、機器が1人1台あるというところで実施されるということは見通しの中に入っておりますので、これをどういうふうに進めるかということも併せて検討しているところで、今後、また進捗については報告できるところで、皆さんにお伝えしていきたいというふうに思います。

報告事項（2）『令和2年度横須賀美術館運営評価報告書について』

（美術館運営課長）

それでは、美術館から報告事項（2）『令和2年度横須賀美術館運営評価報告書について』、ご説明させていただきます。

横須賀美術館では、毎年度、運営の評価を行っており、このたび、令和2年度の評価結果を報告書としてまとめました。

横須賀美術館運営評価は、現在行っている活動の状況について、自らの評価（一次評価）だけではなく、外部の運営評価委員による評価（二次評価）を行っており、評価結果及び評価委員会のご意見等を基にして、事業の改善に向けて検討を実施し、よりよい美術館を目指していくものです。

1、評価項目ですが、横須賀美術館には3つの使命に基づく8つの目標があり、それぞれの目標について数的指標である達成目標と質的指標の実施目標の2つの評価を行いますので、計16項目の評価となります。

それぞれの目標については、1ページ下段の1、美術を通じた交流を促進する。

①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となるから、2ページ、⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効果的に運営・管理するまでとなります。

3ページをお開きください。

2、横須賀美術館運営評価システムの概要ですが、(5)に記載のとおり、S評価からD評価までの5段階評価となっております。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったため、令和2年度一次評価から追加部分に記載の評価方針の下、一次評価の判定分をF判定

としたものが多くありました。

3、令和2年度の評価についてご説明します。

1の評価項目でご説明しました3つの使命、8つの目標について、資料の4ページから8ページに記載のとおり、委員より評価をいただきました。

こちらは、令和3年7月に開催された第1回横須賀美術館運営評価委員会において二次評価が確定したものとなります。

それでは、委員よりいただいた主な評価内容を3点ほどご説明いたします。

4ページをお開きください。

①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となるの達成目標については、コロナ禍で判定不能となりました。しかし、実施目標については、ウェブで楽しむ横須賀美術館、あつまれどうぶつの森での所蔵作品の公開など、コロナ禍で新しい取組を行ったことやツイッターのフォロワー数が増加したことなどを高く評価していただき、A評価となりました。

5ページをお開きください。

調査結果の③調査研究の成果を生かし、利用者の知的欲求を満たすの実施目標について、自己評価である一次評価はB評価といたしましたが、委員の皆様から自己評価以上のA評価をいただきました。コロナ禍で企画展の中止などがありました。事業の代替としてのオンラインでの動画公開等も含めて評価していただいたことによるものです。

続いて、7ページをお開きください。

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供するの達成目標については、一次評価と同様に、二次評価についてもA評価をいただきました。

館内アメニティ満足度に関しては、来館者から当館の感染症対策について、「コロナ時の入場制限が実施されていたため、安心して見ることができた」などの意見をいただきました。そして、委員の皆様からも目標をはるかに上回る評価をしていただいたことによります。

続いて、9ページをお開きください。

4、今回の評価時にいただいたご意見等に対する今後の取組等については、委員会からのご意見を受け、今後、取り組む内容となります。

委員会では、ウィズコロナの状況が続く中で、ハイブリッド型の模索についてのご意見やアンケートの母数についてのご指摘をいただきましたので、今後の検討課題として取り組んでまいります。

以上、令和2年度の評価では、達成目標と実施目標を合わせた二次評価の結果として、Aが7つ、Bが3つ、Fが6つとなりました。引き続き、この評価システムを活用して、今後もよりよい活動を目指して取り組んでまいります。

なお、令和2年度運営評価報告書を別添、添付してございますので、後ほど

ご覧ください。

以上で報告事項（２）『令和２年度横須賀美術館運営評価報告書について』の説明を終わらせていただきます。

（澤田委員）

５ページの達成目標の評価委員会のコメントの３のところ、「解説」の評価については分析が必要であるとありますが、これはどういうことでしょうか、補足いただければと思います。

（美術館運営課長）

解説の満足度につきましては、それぞれ課題を残す数値を今回いただいております。そのことについて述べている箇所となります。

昨年度は、企画展６つのうち、２つは中止、順延とさせていただいております。開催した上田展、倉重・天野展につきましては、ミニマリズムという少し分かりにくいテーマなどもございましたので、このことが解説の理解度が低かった原因と分析しているところでございます。

いずれにしても、学芸員が開催結果について適宜分析し、次回開催に生かしていくということを行っています。

（川邊委員）

５ページ及び７ページに満足度の評価がありますけれども、お客の満足度を評価するというのは、どういう方法で調査したのでしょうか。

（美術館運営課長）

具体的には、館内にアンケートを配布する箇所を２か所設けておりまして、そこでアンケートにお答えいただいた方の結果で、数字を出しているところでございます。

（川邊委員）

アンケートの取り方によって大分変わってくると思うのですが、どのようなアンケートを、あるいは質問事項でアンケートを取ったのでしょうか。

あと、アンケートにはどのくらいの方が答えてくださっているか、入場者に対してどのくらいの方が答えているか、結果として分かるのだったら教えてください。

（美術館運営課長）

アンケートの母数については、それほど実は高いものではございません。

配布の仕方は、館内3か所にアンケート箱を置かせていただき、希望の方にご記入をいただいております。

信頼性については、運営委員から、もう少し母数を増やしたほうが良いというご意見をいただきましたので、今後試験的に、入館受付時にお配りするという形で、準備を進めているところです。

アンケートの内容につきましては、展覧会の満足度、施設管理の満足度、運営に対する意見など、主に3つの柱で行っております。

報告事項(3)『新型コロナウイルス感染症に係る市立学校等の対応について』

(学校教育部長)

それでは、『新型コロナウイルス感染症に係る市立学校等の対応について』、ご報告いたします。

まず、1の市立学校についてご説明します。

本市における教育活動につきましては、緊急事態宣言解除後も感染予防を徹底する観点から、段階的に制限を緩和することといたしました。

具体的には、9月30日から10月3日までの期間、10月4日から10日までの期間、10月11日から17日までの期間、10月18日から10月24日までの期間、そして10月25日以降の5段階に分け、適用する感染対策マニュアルや部活動等放課後の教育活動を順次緩和してまいります。

詳細については、資料に記載のとおりです。

3ページ目をご覧ください。

次に、市立学校における感染者発生状況についてご報告いたします。

9月の1か月間の感染者数は、表にあるとおりです。

感染経路は、家族内感染が大半を占め、本格的に教育活動が再開された中、学校での感染拡大の状況は見られていません。

今後も、子どもの学習保障や発達・成長の場を確保する観点から、引き続き感染対策を図りながら教育活動を行えるよう、学校を支援してまいります。

続きまして、2、社会教育施設について報告いたします。

先ほど、教育長からの報告にもありましたとおり、社会教育施設は国の緊急事態宣言が9月30日をもって解除されることに伴い、利用中止をしていた自然・人文博物館及び馬堀自然教育園を9月24日から、生涯学習センターの図書室を含む図書館を25日から、生涯学習センターを27日から、順次、市民の方の利用に限り再開いたしました。

また、10月1日からは、横須賀美術館、天神島臨海自然教育園、そしてヴェルニー記念館の利用を再開するとともに、市外の方の利用についても再開いたしました。

以上で新型コロナウイルス感染症に係る市立学校等の対応についての報告を終わります。

(質問なし)

(理事者報告なし)

(委員質問なし)

日程第1は神奈川県教育委員会が今後発表する案件であるため、秘密会とすることを宣言。関係理事者以外の退席を求めた。

6 閉会及び散会の時刻

令和3年10月7日(木) 午後4時42分

横須賀市教育委員会

教育長 新 倉 聡